# でさずしえどがわ

**No.34** 

発行日 / 2017.3.1 創刊日 / 2007.4.10



http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/



鎌田川親水緑道にて

# 平成28年10月入学の第13期生。人生大学は「人財」の宝庫です。

13期生も社会で、家庭で、そして人生で豊富な経験や知識を持つ「人財」が、江戸川区の各地から入学しました。老若男女、29歳から89歳までの幅広い年齢層の89名が、人生大学での2年間の学びを糧に、797名の卒業生と78名の学生(12期生)に続き、よりいっそう快適で住みやすいまちづくりの担い手として活躍することが期待されます。









# 「学ぶ」 ことの楽しさ、 世代を超えた「仲間づくり」が魅力!

江戸川総合人生大学では、さまざまな人生を歩んでいる方々が、さまざまな思いを抱きながら、同じ学び舎で学んでいます。 今回は、昨年10月に入学した13期生の人生大学にかける思いを、インタビューとアンケート形式でご紹介します。

## 江戸川まちづくり学科

座談会形式で男女4名に話を聞きました。

入学動機は、江戸川区に長く生活をしていてあまりにも江戸川区のことを知らずもっと知りたい、自由な時間が持てるようになり新しい仲間づくりがしたい、こんな思いからでした。

授業が始まり北野学長の講義は、人が生きる上での基本的な内容で新鮮でした。多田区長ならびに区幹部の皆様の講義は、区の内情をより深く知ることができ大変有意義でした。

入学して数ヶ月たち、仲間も徐々にできつつあり 学生生活も楽しく授業が待ち遠しくなってきました。

まちづくり種さがしのフィールドワークでは、卒業 生が中心に活躍しているボランティア団体の様子を 見たり、初めての企画である江戸伝統工芸の風鈴作 りの現場に出掛け、風鈴作りの体験もしました。

人生大学で今後何を 学び取っていくのか、 少しずつ分かってきた ように思えました。

もう少し時間をかけ、自分が何をしたらよいのか考えていきたい。



## 国際コミュニティ学科

#### 役立つ何かを見つけたい。

勤めながら漫画家になることを夢見る乙女です。知り合いの外国人から、区への要望や区民とコミュニケーションを図りたいとの思いを聞き、いつかそうした人々のお役に立ちたいと思って志望しました。

毎回が新鮮で興味深い授業から、自分でもお役に 立てる何かを見つけたいと思います。世代を超えた 同級生の方からは刺激と励ましをいただいています。

白鳥紋加(国際、30才、小岩在住)

### 「江戸川区民」を自覚しました。

「生涯学ぶ機会を求め続けたい」との思いを、仕事と生活の調和が可能となったいま実現。外資系企業数社での経験を異なる環境で見つめ直すことと、新たな友人・仲間づくりが目標です。

どの授業内容も学ぶ意義と価値があり、なかでも 必修科目"えどがわ入門"は、あらためて江戸川区民

としての自覚を芽生えさせ てくれました。楽しい学生 生活が送れています。

宇田川信雄 (国際、65才、今井在住)



## 子ども・子育て応援学科

子ども・子育て応援学科では、男女合わせて16人が、子どもを取り巻くさまざまな環境や問題について学んでいます。いま、毎日のように子どもたちが被害者になる事件が起こり、胸が痛みます。一般区民の私たちがそうした問題の解決のためにできることって何だろう?

「子育てに悩む親に寄り添いたい」「子ども食堂や学習支援などで子どもたちを見守りたい」など、16人にはそれぞれの思いがあります。

人生大学の学びを糧にして愛情にも食事にも飢える子どもを少なくするための支援ができるように取り組んでいきたいと思います。

一人ではできないこともみんなで力を合わせれば 大きな力になります。16人で協力し意見を出し合っ て実現に向けていきたいと思っています。

子ども・子育て応援 学科の仲間よ!頑張り ましょう。



## 介護・福祉学科

私たちのクラスは、男性5人女性11人の計16 人です。 平均年齢は68歳です。

島倉千代子の持ち歌で「人生いろいろ」という曲があります。

自己紹介を聴くと、48歳で転職、介護士資格を取得し介護施設で仕事をしながら、人生大学に通学している人。

介護施設でホスピスとして働き、人生大学に通学し、夜7時からタワーホール船堀で日本語を学んでいるスペイン人のお母さん。

また、老々介護している人。 家族を介護し看取った人など、人生いろいろです。

入学の思いも、生きがいを求めて、友達づくり、 認知症予防、もっと学びたい人などいろいろです。

祉の現状や改善策など を学びたいと思ってい ます。

私たちは、卒業したら地域の中で学んだことを活かせたらと思っています。



# 卒業までの折り返し年次を迎え、 現在、12期生はどのような抱負や 心構えで課題に取り組んでいるのでしょう。

各学科の 12 期生の編集委員が感じた「頑張っています! 12 期生」をお伝えします。

# 江戸川まちづくり学科

1年次は、「えどがわの種」を探す仲間との楽しいまち歩きから始まりました。 仲間とのまち歩き、グループで行った篠崎駅周辺の地図作りや地域資源のプレゼン

テーションなどで強い連帯意識が芽生えました。

ここで生まれた連帯意識が十分に発揮されたのが大学祭で、全員でのフラダンスが好評など成功裏に終えることができました。

また、1年次で学んだことを活かす期末の課題研究では、一人ひとりが日頃気になっていることや関心のあることを調査分析し、発表できました。

2年次の初めには必修の社会活動体験が大きな話題でした。しかし、今では卒業後の活動を思い描きながら、一人ひとりが積極的に社会活動体験に取り組んでいます。 さらに卒業後の活動のために、授業、課題研究、社会活動で知り合った講師、先輩、 区の職員などとの絆を深めています。

現在は、3月26日に開催される新川あさ市への出店や、2年間の学びの集大成である卒業研究に向け日々前向きに取り組んでいます。



フラワーガーデンにて

国際コミュニティ学科

気持ちも体も積極的で前向き。現在のクラス全体の様子を端的に言い表せば、そ んな表現がふさわしいほど意欲的な雰囲気が学生たちにみなぎっています。

2年次の授業は、1年目のフィールドワークをプロジェクトチームに発展させた活動 や各チームを編成しての共同研究作業など実に多彩です。また講義室から外に出て 社会と向き合うボランティア活動の実践も2年次の大きな柱です。

それぞれが精力的に課題に取りかかっています。その光景はジグソーパズルの作業にも似ています。25のピース(学生数)に分解された小片が、お互いに協力、連携、協調し組み立てられた時(卒業)には、どんな1枚の絵柄が現れてくるのでしょう。仲間と学びの時間を共有できてよかったと思えるような絵になりそうな予感を感じながら頑張っているのが今の空気です。



授業風景

**子ども・子育て応援学科**子ども・子育て応援学科は13名という少人数で始まりました。少人数ゆえにコミュニケーションが巧く図られるという効果を生み、みんなで話し合い、協力し合って和気あいあいの中で対処することができました。

特別その効果が発揮されたのは大学祭の時でした。 各自にさまざまな制約条件がある中、自宅で作業するなど工夫し、また協力し合ってがんばったおかげで「やった!」 感を共有することができ満足すべき結果でした。

2年次もこの貴重な経験と、その精神を踏襲し、仲良く互助の精神で結束を高め、「全員が卒業する」ことを目指し、人生大学に学んで良かったと思えるように取り組んで行きたいと思います。

それは、今後何期にもわたり引き継がれるであろう人生大学の後輩に対して、大切なメッセージになると確信いたします。



大学祭にて

**介護・福祉学科** 希望と期待に燃え入学し、1年次が足早に過ぎ、早くも2年次を迎えました。講師 の方々の素晴らしい講義を受け、一人ひとりが社会をみる視野がひと回り広がったと

感じています。年齢差、過去の人生、生活環境の違い、立場を越え、縁あった仲間たちが共に励まし合い目標に向かって学ぶことの喜びを実感しています。

大学の学習や体験は、私たちのような熟年者にとって理想的な学びの場ではないかと思います。

2年次は1年次に習得した知識を活かし、区民への報恩と自分達の人間形成の向上を目的としたボランティア活動が始まっています。積極的に実習活動に参加することで、2年間の学びの集大成の成果としたいという気持ちで受け止め、最後の2年次に臨もうとしている、仲間たちの向上心にあふれた強い覚悟や高揚とした空気が伝わってきます。



自作新聞発表会

# 卒業生のボランティア活動紹介

## 人生大学まちづくり暮らしの会

「人生大学まちづくり暮らしの会」は、江戸川まちづくり学科10期生の卒業研究グループが主体となって2015年10月に発足しました。

現在、会員 15名の半数は人生大学の卒業生と 在校生です。

当初は、葛西市場で野菜を仕入れて青空市場を開いたりしました。現在は、空き家を減らし、地域の防犯を向上させるとともになごみのスペースを作るという趣旨のもとに活動を行っています。具体的には、一之江5丁目にある空き家を修理・整備し、そこで布草履の製作、大正琴の教室、あるいはスペース貸しを行っています。

今後は、会員の技能を活かした書道、パソコン、 日曜大工などの活動まで手をひろげたいと考えて います。また活動内容を増やすだけでなく、利用 可能な空き家を探し、活動拠点も増やしたいと考 えています。

地域活動にかかわっている話をおうかがいし、 卒業後の活動に触発されるものがありました。

(連絡先)会長 安藤 高志 080-5418-4217







大正琴の教室

## 小岩日本語クラブ

小岩日本語クラブは設立以来21年の歴史があります。クラブの目的は「お互いの歴史、文化の理解と、交流を図ること」でボランティアメンバーは38人です。クラブのモットーは「みんなで楽しく学ぶ」で、学習者は毎回30~40人、年齢層は6~30歳代までとさまざまで、国籍は中国を中心に9ヶ国にわたります。

学習形態はマンツーマンを基本とし、教材は「みんなの日本語」を使用しています。しかし、日本語の学習といっても教材を使っての学びだけではなく、筆談や辞書を使って会話を楽しんだりする人、新聞を読解する人、日頃の疑問に答える人などさまざまな形で行われています。教室というよりもクラブとして学習者もメンバーも楽しんでほしいと代表も願っています。

クラブとしては日曜日開催のためか、特に社会 人の学習希望者が増加している状況にあり、日曜 日開催の日本語教室が増えてくれればいいと代表 は言っています。

小岩日本語クラブHP参照 http://koiwanihongoclub.web.fc2.com/



学羽国里



学んでいる子どもたち

#### 同窓会の窓



携帯電話の主力となったスマートフォン(スマホ)。本格的に 普及しだして、まだわずか 10年程度ですが、電話・メール 等の通信ツールとしてだけでなく、カメラ・音楽プレーヤー・書籍リーダー・決済ツール・ゲーム等々数え切れないほど多機能で、電車の中などでも多くの人が画面を睨んでいる光景が 当たり前になりました。技術の進歩だけでなく、多くの人のニーズに適応した結果でしょう。

私達江戸川総合人生大学同窓会も、もう少しで10周年を迎えます。ほぼスマホと同い年ですが、負けないように、一層 会員や地域の方々に親しまれ・信頼される存在になれるよう、 日々務めたいと思います。

同窓会会長 前田 直義(国際9期)

同窓会ホームページ http://jinseidaidousou.web.fc2.com/ 人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

<お詫びと訂正> 前号(№33)の「子ども・子育て応援学科」の記事中に間違いがありました。お詫びして訂正します。 正しくは次のとおりです。 (誤)熊本手一本 → (正)博多手一本

## 編集後記

本号では、新たに人生大学に加わった13期生の思い・抱負などを データとともに従来よりも大きく取りあげてみました。2年目を迎えた12 期生についても1年間の振り返りと今後の展望を掲載しました。

いかがでしたでしょうか。

編集委員会も13期生を迎え新たな体制でスタートをきりました。 地域と人生大学を結ぶ発信媒体として、地域の方々に手に取りやすく、読 みやすい紙面にしていきたいと思います。

編集長 箱島 実(まち12期)

#### 編集:「ひと あい えどがわ」編集委員

[12期生] 榎本清一、箱島実(まち) 大島なお美、白坂敬三(国際) 一山輝江、堀田英朋(子ども) 熊谷富雄、西峰正二(介護)

[13期生] 大場千恵子、柴田正美(まち) 大野正夫、黒田健司(国際) 志賀直照、松本政子(子ども) 櫻井昇、松島珠美(介護)

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで 電話:03-3676-9075/FAX:03-3676-6545